

氏名	吉 野 公 博		
学 位 の 種 類	医 学 博 士		
学 位 授 与 番 号	博乙第 1943 号		
学 位 授 与 の 日 付	昭和 63 年 9 月 30 日		
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）		
学 位 論 文 題 目	脳血管攣縮に対する Ca拮抗剤の効果 —実験的研究—		
論 文 審 査 委 員	教授 佐伯清美	教授 森 昭胤	教授 大月三郎

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

クモ膜下出血後に出現する脳血管攣縮の発現機序は、現在不明であるが、血管平滑筋細胞内 Ca イオンの関与が示唆されている。Ca 拮抗剤は Ca イオンの流入を抑制する作用があり、脳血管攣縮に対する効果が期待できる薬剤である。そこで、成猫を用いて実験的脳血管攣縮を作成し、Ca 拮抗剤を投与しながら脳底動脈の血管径と脳幹部の局所脳血流量（rCBF）を測定することによりその効果と臨床応用について検討した。Ca 拮抗剤の脳底動脈血管径に与える変化は、脳血管攣縮群ではコントロール群より小さく数%の拡張を示したのみであった。Ca 拮抗剤を投与した際、rCBF は無反応、一過性増加、持続性増加の三つのパターンを示した。これらの rCBF の変化は Ca 拮抗剤投与と同時に血圧が下降しなかった場合には出現しなかった。脳血管攣縮群で、持続性増加と一過性増加を合わせて検討すると高率にこれらの増加が出現したのは Nicardipine（56%）、Nifedipine（48%）においてであった。しかし、rCBF がいくら増加しても血圧の低下が出現することから臨床応用は難しいと考えられた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はネコの実験的クモ膜下出血後血管攣縮に対する Ca 拮抗剤の効果を脳底動脈血管径と局所脳血流量の両面から研究したものであるが、Ca 拮抗剤の脳血管拡張効果と動脈血圧下降効果の関係について重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。